



天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

イザヤ四十一章5-6節

一般財団法人 ジェネシスジャパン 2026年6月27日
ニュースレター 第71号
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3
電話 029-292-9621 ファックス 03-6862-8340
メール info@genesisjapan.com ホームページ genesisjapan.com

考えられます。この時期は超巨大火山の噴火が各地で起こり活発な造山運動もあったと考えられます(ニュースレター21号参照)。

この時期は、左表の更新世に対応しています。また、氷河期の初期は、鍾乳石が急速に成長するのに最適な環境が整っていました(ニュースレター56号参照)。このように、聖書メガネを掛けると、ノアの洪水から氷河期にかけて、地球全体で同時並行的に様々な地質学的事象が起こり今日の地球の姿が形成されてきたことがわかるのです。

不確定な部分

聖書に基づいて地球を調査すると、ノアの洪水を軸に地質学的事象をきちんと説明できることがわかります。しかしこの変換表を作成したウォーカー博士は、斉一説の地質年代代表を聖書の年代に変換する時に気をつけなければならぬことを述べています。

「大洪水は増水期と退水期に分かれる。左表の先カンブリア紀、古生代、中生代に出現したとされるほとんどの岩石は、大洪水増水期に、厚く広範囲にわたって形成されたと考えられる。その後、大陸の隆起に伴って退水が起こり、大陸の大規模浸食が発生し、浸食された土砂は陸地の端へ運ばれて堆積した。その後、現代見られるような微々たる堆積しか見られなくなった。それは大洪水の退水が終わってしまったからだ。斉一説に立つ地質学者は大洪水退水期の影響を考慮できない。特に彼らが新生代の岩石だと分類し

たものは、実際には、増水期、退水期、洪水後のものが入り混じっており、聖書の歴史から判断する必要がある。」¹

このように、斉一説に基づく地質年代代表は、聖書に基づく地質年代代表に完全に対応している訳ではありません。それは異なる歴史を信じているためです。ですから、左表の地質時代を聖書の時代に変換するとき、右表の地質年代のいたいこの辺りと、おおよそで考えましょう。

聖書メガネか斉一説メガネか

氷河期が終わってからは、大きな地質学的変化はありません。現在起こっていることは、局地的な火山の噴火や河川の浸食による堆積物の運搬程度です。斉一説メガネを掛けると、このわずかな変化の積み重ねで現在の地球の姿が形成されたと考えます。ですから、地球の年齢は何十億歳という結論が正しく見えるのです。そしてこのような結論を導き出すことで聖書の歴史を否定し、聖書が信じられない根拠とします。

私たちは聖書に記された本当の歴史を知っており、現在起こらないノアの洪水などの大激変によって様々な地質学的事象が生じたことを心に留める必要があります。日本各地には様々なジオパークや博物館があり、斉一説に基づく説明がなされています。私たちはそれらの説明から斉一説メガネを取り、地質年代変換表を参考に、聖書メガネを掛け、聖書に基づいて考えようではありませんか。

引用文献・参考文献

1. Walker, T., "The geology transformation tool" Creation Ministries International, Sept. 3, 2020 <<https://creation.com/en/articles/geology-transformation-tool>>

講義・イベント予定

2026年

■創造を伝える働き人養成講座

日程：2026/
会場：洞爺湖

■創世記の歴史が造った世界の旅

日程：2026/9/17-23
(日程が確定しました)
行先：米国グランドキャニオン・デスバレー・マンザナー日本人キャンプ跡・ヨセミテ国立公園など
ノアの洪水で形成された地層や峡谷、洪水後の氷河期に形成された氷河地形を訪れ、講義と見学を通して創世記の出来事に思いを馳せます。

お知らせ

地質学者イ・ジェマン氏の youtube セミナー
「氷河の一角シリーズ」

第一回「ヨブ記から始まる氷河時代」

全12回のセミナーを通して、聖書の歴史と氷河時代の関係がよくわかるでしょう。CGNTV制作、宇佐神実監修。右のQRコードから読み込めます。
https://www.youtube.com/watch?v=MXs41_q5zWE

献金のお願い

国内外に聖書的創造を伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

「古代中国に隠された聖書の神」

唐振基著

定価 ¥2,200+ 送料
All カラー 全365頁



漢字を造った中国人は、ノアの洪水後に

起こったバベルの塔事件で、中国へ移住した人々です。実は、漢字には天地創造からバベルの塔事件までの歴史に基づいて造られたものがたくさんあります。是非、お求めください。

お申し込み・お問い合わせ

ジェネシスジャパンまで

聖書と地球史の調和

すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。

創世記6章13節

ジェネシスジャパン会長 宇佐神実

歴史の枠組み

歴史には、二つの側面があります。それは事象(何が)と時間(いつ)です。歴史を正しく理解するためには、これら両方を知る必要があります。

聖書にはいつ何が起こったかが記録されています。創世記5章には、人類の初代アダムから11代目のノアの息子たちまでの系図が記されています。もしここに誰から誰が生まれたという名前が記されているだけであれば、血縁関係を知るのには役立ちますが、時間

の経過を知ることはできません。しかし聖書には、アダムが130歳の時セツが生まれ、セツが105歳の時エノシュが生まれ、というふうに、時間の経過も記録されています。

創世記11章も同様ですが、このような特殊な系図を聖書的創造の立場では、『時系図(chronogenealogy)』と呼んでいます。この時系図と、聖書にあるノアが600歳の時に大洪水が起こったという記述(創世記7:6)から、大洪水は天地創造の1656年後の出来事だとわかります。また、

創世記7~8章にはノアの洪水の進捗状況も記されていて、最初の150日間は水が増え続けて地球全体を水が覆い尽くしたと、その後220日間をかけて水が退いたことがわかります。

その他、聖書の時系図や既知の歴史の年代を通して、天地創造から数えて地球の年齢は、約6,000歳だとわかります(別紙表1参照)。ですから聖書の創造の立場に立つ科学者は、この時間枠ですべての地質学的事象が起こってきたと考えます。この立場のキーワードは、「**短期間で急激に**」です。



一方、進化論の世界観は、斉一説（現在起こっている現象が常に起こり続けてきたのであって、天地創造やノアの洪水は起こらなかったという進化論の根底にある視点）に基づいて地球がいつ誕生し、いつどのような地質学的事象が起こったかを考察します。

この立場は聖書の歴史を信じないため、進化論に沿った年代ができるように考案された放射性年代測定を用いて地球の年齢を定めています。1920年頃は約15億歳、1930年頃は約20億歳、1940年代には約30億歳とだんだん地球の年齢が増え、1950年代以降は約45億歳とされています。進化論を信じる科学者は、この時間枠ですべての地質学的事象が起こったと考えます。キーワードは「長い年月をかけて徐々に」です。

このように時間枠が増えるとき、各地質時代の長さが変わらなければ、地質年代表は隙間だらけになってしまいます。ですから地球の年齢が増える度に、各地質時代の長さも引き伸ばされてきたのです。しかし聖書には、本当の歴史が記されています。ですから、地質学的事象も聖書の歴史に基づいて判断することが大切です。

聖書メガネと斉一説メガネ

視力矯正眼鏡を掛けると物の見え方が変わります。私たちは聖書の歴史というメガネを掛けて地質学的事象を見るか、斉一説の歴史というメガネを掛けて見るのかで、地層や地形の形成に関する理解が全く変わってしまいます。

聖書メガネは、天地創造やノアの洪水など聖書に記された歴史を受け入れ、斉一説メガネは、聖書の歴史を否定するからです。現在

私たちがマスメディアや教科書などで触れる情報は、斉一説メガネを掛けた人の情報ばかりです。そして何億年という地質年代ばかり繰り返し耳にすると、それが正しく思えてしまいます。

しかし私たちは、創造主が真実の方であり、創造主のことばである聖書の歴史にも偽りが無いことを知っています。ですから私たちは、斉一説メガネを外し、聖書メガネを掛けて地質学的事象を考察していきましょう。そうすることで、聖書が示す約6,000年という時間枠で、個々の地質学的事象が「いつ」「どれくらいの時間を要して」起こったのかを判断することができます。

地質年代変換表

表1は、オーストラリアの聖書の創造を信じる地質学者タズ・ウォーカー博士が製作した「地質年代表変換ツール」に多少の解説を加えたものです。左側が進化論の年代を示す「斉一説に基づく地質年代表（以後「左表」）」で、右側が聖書の歴史を反映した「聖書に基づく地質年代表（以後「右表」）」です。

聖書の創造を信じる地質学者も、同じ地質学的事象を調査し、同じデータを得ますが、異なるメガネを掛けているため、左表と右表では全く異なる歴史理解となります。左表は斉一説に基づいて推測された歴史を取り、右表は聖書に記録された歴史を取るためです。

ですから、聖書の創造に立つ地質学者は、左表と右表の年代順は概ね一致しているが、多くの例外や、不確定の部分もあると考えます。このことは後述します。

地質年代表の対応

1. 冥王代：左表の左下に冥王代という時代が記されています。斉一説では、地球は最初熱く燃える火の玉のような状態だったと推定しており、それが冷えて固まるのに必要な年月を冥王代と呼びます。しかし聖書メガネを掛けると、地球は火の玉ではなく水の玉として造られたことが書かれていますから（創世記 1:2, IIペテロ 3:5）冥王代は実際には存在せず、そのような地層も存在していません。

2. 洪水前の時代と大洪水初期：聖書の歴史から、地球は創造主によって6日間で造られたことがわかります。聖書の創造の立場から、天地創造とその後ノアの洪水までの1656年年間で形成された地形や地層はどこにみられるでしょう。かつては、右表の大洪水増水期（緑の矢印）の下にある破線部分で、左表の太古代から原生代前期に相当する部分だと考えられてきました。

しかしこの地層を実際に調査していくと、厚さ数キロに及ぶ膨大な火山性堆積物、小惑星の衝突の痕、硫黄蒸気、酸性流体、溶岩流、マグマの貫入や定置、ダスト・クラウド、火山灰の堆積などが存在していて、「ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、天の水門が開かれた。（創世記 7:11）」の記述を彷彿とさせます。そういうわけで、緑の破線部分の時代は、ノアの洪水の初期だと考えられるのです。

では、最初に創造された非常に良い地球の姿は、どこにあるで

しょうか。聖書にこうあります。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。（創世記 6:13）」ですから、エデンの園も、洪水前のすばらしい状況を知る手がかりも滅ぼされてしまい、地層の中にはおそらく見出せないでしょう。また、洪水前の大量の動植物から原油や石炭層や石灰岩層などができたことから、洪水前の地球が滅ぼされてしまったことがわかるのです。

3. 大洪水による地層：「水は、いよいよ地の上に増し加わり、天の下にあるどの高い山々も、すべておおわれた。水は、その上さらに十五キュビト（約7m半）増し加わったので、山々はおおわれてしまった。（創世記 7:19-20）」

ノアの洪水が起こって最初の150日は増水を続け、最も高い山も完全に水没します。これは大洪水増水期の緑の矢印で表されています。それから大洪水退水期の水色の矢印に示されているように220日かけて水が退きます。この間の地層形成の様子は、ニュースレター45号で扱ったメガシーケンス（巨大層序群）からわかります。大洪水による6つのメガシーケンスが見られます。

(1)(2)ソークメガシーケンス（先カンブリア紀～オルドビス紀下層）と**ティベカヌーメガシーケンス**（オルドビス紀中期～デボン紀初期）：この二つのメガシーケンスから発見される化石はほとんど海洋生物の化石です。このことは、ノアの洪水の水が地上の陸生生物に大きく影響を与えるほど増水しおらず、大洪水の影響は概ね沿

岸部にとどまっていたと考えられます。

(3)カスカスキアメガシーケンス（デボン紀初期～石炭紀中期）：海洋生物の化石に陸生生物の化石が混じるようになります。大洪水の水が内陸でも増水していった様子がわかります。

(4)アブサロカメガシーケンス（石炭紀中期～ジュラ紀初期）：増水によって陸上の広範囲が水に覆われ、恐竜を含む多くの陸生生物と海洋生物の化石が見られます。

(5)ズニメガシーケンス（ジュラ紀～古第三紀初期）：増水期最後の洪水150日目までの期間で、この期間に箱船に乗らなかった陸生生物は完全に死に絶えてしまいました（創世記 7:19-24）。

(6)テハスメガシーケンス（古第三紀中期～新第三紀後期）：洪水で増水した膨大な水が退いていった時期です。この時期は、プレートの衝突による非常に高い褶曲山脈の形成や、水の浸食により現在の地球の姿に近い地形が形成され、また浸食された土砂が堆積し、様々な岩石も形成された時期でもあります。ニュースレター63号で扱った花崗岩が形成されたのもこの時期だと考えられます。またニュースレター55号で扱った鍾乳洞の洞窟部分もこの時期に形成されたでしょう。

4. 大陸移動：天地創造の時に造られた一つの大陸がノアの洪水の時に現在の大陸に分かれたと考えられます。ノアの洪水の最初に起こった出来事は「巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け（創世記 7:11）」で、この時それまで一枚だったプレートがいくつものプレートに分かれたと考えられます。斉一説では、最初からプレー

トは分かれていて歴史を通じてプレートとプレートの上に乗った大陸は離合集散を繰り返したと考えています。しかし聖書から考えると天地創造の時は、一つの大陸が作られています。ノアの洪水が始まってから一度大陸が分裂してまた合体し、再度分かれたという考えもありますが、ここでは、存在が確実なパンゲア大陸から考え始めます。

左表の年代に基づいて表記しますが、実際にはノアの洪水の時期に当てはめて考えると、ノアの洪水の中期から後期にかけて急激に大陸が移動していく様子が理解できます。

a. ペルム紀：1つの超大陸、パンゲア大陸が存在。

b. ジュラ紀前期：パンゲア大陸が分裂。

c. ジュラ紀中期：ローラシア大陸（北アメリカ大陸・ユーラシア大陸）と Gondwana 大陸（南アメリカ大陸・アフリカ大陸・オーストラリア大陸・インド亜大陸・南極大陸）の2つの超大陸となる。

d. 白亜紀後期：ローラシア大陸は北アメリカ大陸とユーラシア大陸に分かれ、Gondwana 大陸は南アメリカ大陸とアフリカ大陸に分かれる。

e. 暁新世：アフリカ大陸からインド亜大陸が分かれて北上しユーラシア大陸に衝突することで、地層の褶曲が起こりヒマラヤ山脈など高い山が形成される。

f. 漸新世初期：南アフリカ大陸からオーストラリア大陸・南極大陸が分かれる。

5. ノアの洪水後：ノアの洪水の後、洪水地質学とヨブ記から、約700年間の氷河期があり、この時に様々な氷河地形が形成された